

令和4年度 第1回市民と市長の座談会

会 議 報 告

事務局 企画財政部広報秘書課広聴係

開催日時	令和4年5月15日（日）午後2時00分～4時00分
開催場所	婦人会館
参加者	男性 5名 女性 3名 計8名
会議次第	1 開 会 2 市長あいさつ（市政報告） 3 懇 談 フリーテーマ 4 閉 会
主な意見	<ul style="list-style-type: none">・コロナウイルス感染症の感染状況の広報について・事業申込み方法の改善について・市内企業の名称について・新庁舎建設の時期について・東町に建設された施設に関する議事録について・リサイクル事業所閉鎖に伴う代替施設について・コミュニティバスの他市との共同運行について・東小金井駅東側部分の再開発地区の活用について・C o C oバスや施設等に関する案内板等について・保育園や小学校の給食のオーガニック化について・オーガニックビレッジについて・本を読む環境（施設）作りについて・民生委員空白地域の福祉サービスについて
懇談内容	別紙のとおり
そ の 他	手話通訳者 2名 保育士 1名

令和4年度第1回市民と市長の座談会

令和4年5月15日

1 開 会

○司会者

皆様、本日は、御参加いただきまして誠にありがとうございます。私は本日の司会進行を務めさせていただきます、広報秘書課長の廣田と申します。どうぞよろしくお願いたします。新型コロナウイルス感染症の防止対策としましてのマスク着用のまま、着座にて進行させていただきますので、よろしくお願いたします。まず初めに、配付物の確認をさせていただきます。まず、次第が1枚目でございます。続きまして、アンケートをお配りしていると思います。アンケートが1枚ございます。続きまして、「令和4年度施政方針」がございます。続きまして、「令和4年度小金井市予算の概要」ということで、こちらは15ページから31ページの抜粋のものがありますが、こちらをお配りしてございます。続きまして、「第5次小金井市基本構想」というふうに書いてある冊子のものがございます。次は横長で「年代別ワクチン接種状況」というこちらの資料がございます。こちらは5月8日現在のものとなっております。これはホームページからの抜粋なんですけれども、「新型コロナワクチン 3回目接種が効果的」という形のこちらは両面刷りなんですけれども、こちらの資料がございます。ここまではあらかじめ皆様に個別に御用意した資料でございます。それに加えて、受付のほうにあるものとしまして、坂のマップですね。坂道のマップ。あと、「小金井市はこんなところです。」といった、こちらは小金井市の御案内をしたリーフレットがございます。あと、こちら「子どもの思いをきいていますか？」というこちらのリーフレットがございます。あと、「協働事業提案制度」という、こちら青色の紙の両面刷りのものがございます。こちらは、もし御希望でございましたら、受付のほうでお渡ししておりますので、声をかけていただければと思います。よろしくお願いいたします。

それでは、開催に当たりまして、事務局より御説明申し上げます。この座談会は平成28年から開始しているものでございまして、毎年、年に4回程度、市民の皆様との市長とのフリートークということで開催しております。本日は、今年度第1回目の開催というこ

とになります。本日の進め方でございますけれども、まず初めに、市政報告ということで、重要課題の進捗状況等につきまして、市長の西岡より簡単に御報告させていただきます。その後、意見交換という形で進めさせていただきたいと思っておりますけれども、詳細の進め方については、後ほど、意見交換に入るときに説明させていただきたいと思っております。それでは、本会に入ります前に、まず、5点ほど事務局より御了承いただきたいと思っております。まず、1点目は、議事録作成のために録音をさせていただいております。懇談の様子を撮影した写真をホームページに掲載させていただいております。懇談中は、発言される時を含めまして、必ずマスクの着用をお願いしたいと思います。4点目としまして、御発言される際、マイクもお渡しするんですけれども、その都度、消毒等をいたしますので、お時間かかってしまいますけれども、御了承のほうをお願いいたします。最後、本日、終了時刻が午後4時を予定しておりますので、3時50分ぐらいになりましたら、最後の質問という形になってくるかと思っておりますが、すいませんが、御了承のほうをよろしくをお願いいたします。では、次第に従いまして、まず、市長の西岡より御挨拶と市政報告をさせていただきますと思っております。

2 市長あいさつ（市政報告）

○西岡市長

皆様、こんにちは。小金井市長の西岡真一郎です。では、着座にてお話をさせていただきますと思っております。どうかコロナ対策で御理解、また、マスクもつけたままの発言となります。どうぞよろしくお願いいたします。本日は、市民と市長の座談会にお越しをいただきまして、ありがとうございます。この市民と市長の座談会は、市長に就任させていただいてから7年目を迎えさせていただいておりますが、毎年開催しております、6年目を迎えております市民と市長の座談会、年4回は開催させていただいております。各地域を回りながら、今日は梶野町、婦人会館の地域の皆様方から様々な地元要望、市政への御要望、政策の御提言、いろいろなお声を市民の方々に伺うために開催するものでございます。今日のこの市民と市長の座談会は、どなたでも参加できるという形式を取っております。テーマを設定させていただくような市民と市長の座談会もあれば、今日はフリーテーマとなっております。主に、基本構想6つの柱、6つですね、6個の柱で新しい基本構想を策定しもので、6個の柱プラス、コロナ対策ということで、大きく7つの角度から、市民の皆様

皆様方には、どのようなことでも結構ですので、様々なお声を発していただければと思います。そして、冒頭、私のほうから小金井市政の現状などについて、2時半ぐらいまでお話をさせていただきます。その後は4時までお時間を取ってございますので、約1時間30分、皆様方と貴重な意見交換をさせていただきたいと思っておりますので、何とぞよろしく願います。また、会議の途中でも、どうぞ、おトイレとか行かれたい方は行かれてください。また、お子様の御様子を見にいきたいときも、どうぞ御自由に席を立っていただいて、御覧になっていただきたいと思います。確認してきてください。よろしく願います。

それでは、私のほうから、資料なども活用しながら、現在の小金井市政の状況などについてお話をさせていただきます。まずは、4つの重要な施策として、新型コロナウイルス感染症対策、それから環境対策、それから、新庁舎及び（仮称）新福祉会館建設の状況、それから行財政改革について、まずお話をさせていただき、その後、私のほうから、人口動向、駅前のまちづくりの整備、それから子育て子育て環境の向上、基本構想に基づく、6つの政策に基づき、現状についてお話をさせていただきたいと思っております。お時間がもしあれば、令和4年度の主な小金井市の事業、取組などについても御紹介をさせていただきます。まず、コロナ対策でございますが、二年数か月に及ぶ長きにわたる新型コロナウイルス感染拡大によって、私たちの生活にはまだまだ影響が及んでいます。いましばらくの間は、ウィズ・コロナ、そして、将来的にはアフターコロナという出口も想定しながら、現状、感染症対策と社会経済活動の能率を図りながら、今、様々な政策を進めているという状況です。特に、後ほど御説明いたしますが、小金井市は医師会、薬剤師会、訪問看護連絡会の皆様方と緊密に連携をいたしまして、ワクチン接種の事業に全力で取り組んでいるという状況でございます。感染状況でございますが、現在、5月22日までは、東京都はリバウンド警戒期間となっております。最新の東京都のモニタリング会議につきましては、御承知のように、感染状況、上から2つ目、感染状況は依然として高いです。レベルも上から2番目の数字。それから、医療提供体制につきましても、上から2番目の医療体制が逼迫している懸念があるということでございまして、予断を許さない。特に、皆様御承知のように、コロナウイルスがどんどん変異を続けておりまして、そして、感染力、伝播力も日に日に強くなっているという状況であります。そういった非常に未知の手強い恐ろしいウイルスと私たちは戦いながらの日々の生活、経済対策がスタートしているような状況にあります。感染状況につきましては、5月11日時点で、小金井市におきましては9,625名となっております。これは全人口の、単純計算ですけれども、もはやもう13

人に1人の方が既に感染をした、あるいは感染している累計でございます。13人に1人の方がコロナウイルス陽性反応が出たということで、極めて身近な感染状況となっております。そして、現状、退院等した方が9,226名いらっしゃいますので、約400名の方が、今、療養をしている。そして、このオミクロン株は比較的軽症の方が多いので、大半の方が自宅療養ということになっています。小金井市におきましては、このコロナ対策につきまして、独自の様々な取組を行っております、PCRの検査や、地元のクリニックと入院する病院との行き来などに活用できる専用のコロナ陽性者、あるいは陽性の可能性がある方を搬送するための車を独自に借り上げておまして、陰圧付きのドライバー席と後部座席とは完全にセパレートされていて、感染のおそれがないように、患者搬送専用車両というものを2台、状況によっては3台保有いたしまして、運用しているという状況です。また、希望者の方々には、小金井市は、独自に自宅療養者の方々にパルスオキシメータや生活支援物資などの御提供もさせていただいているとともに、小金井市の場合、濃厚接触者の方も対象といたしまして、3日分の最低限の生活が行える様々な生活物資などを御提供しております。あわせて、新たな取組として、濃厚接触者や療養中の方が、どうしてもお買物に行きたくても、お買物にも行けませんので、お買物を代行する市独自の取組も同時にしているところでございまして、既に多くの方々に利用されております。新たに令和4年度の6月定例会で予算を御議決いただいてから、令和4年度もこの事業が展開できるようにしてまいりたいと考えています。様々な取組を行っているところでございますが、小金井市の場合には特に、先ほど申し上げましたが、地元の医師会、薬剤師会、訪問看護連絡会の皆様方と非常に緊密に連携を取りながら、様々な事業を行っております。特にワクチンの接種につきましては、スタート当初から、ワクチン連絡会というものをつくりまして、そのワクチン連絡会には市長も副市長も教育長も、必ず、私も100%、この会議が行われた2年近く出席をしてまいりまして、常に医師会の先生方とは情報を共有しながら様々な協議をしております。ワクチン接種については、お手元にA4横の一枚紙をお配りさせていただきました。このワクチン接種、本当になかなかこれは緻密な、大変な作業です。希望する方に迅速かつ安全にワクチンを接種する体制をずっと保持し続けているわけでありまして、ワクチンの種類も3種類になりましたし、年齢もどんどん対象者が拡大されてきておりますし、いろいろとスキームが複雑になってきております。そういう状況の中で、1回目ワクチン接種、2回目ワクチン接種ということで御覧になっていただきますが、小金井市の場合、あくまでも希望制ではありますが、接種率が非常に高く、2回

目の接種は、対象者の約83%の方が2回目の接種を終え、全人口の約80%の方が2回目の接種は終わりました。現在、3回目の接種を進めておりまして、最新の数字ですが、5月8日現在では、対象者の69.57%、約7割の方が3回目を終え、全人口では59.23%ですから、約60%もの方が3回目の接種を終えたという状況になります。私といたしましても、このワクチン接種にはかなり力を入れて取り組んでまいりました。なお、いよいよ4回目の接種の準備を進めているところでありまして、5月15日号の「市報こがねい」を御覧いただきたいと思いますが、この1面には、4回目の接種の最新情報を記載してございます。60歳以上の方が対象。そして、接種後5か月以上経過した方。さらに、60歳以下の方であっても、18歳以上の方であれば、基礎疾患、これは自己申告になります。基礎疾患のある方が4回目の接種の対象となります。小金井市では、現在、接種券を対象者の方々に郵送する準備を進めております。60歳以上の方々には一斉に、3回目接種した方には、5月24日から25日には接種券を発送いたしまして、5月31日までには到着いたします。個別接種では、約47の医療機関の接種ができるのは6月8日からスタートです。そして、6月11日からは、大規模接種会場、いわゆる旧西友ビルですね、武蔵小金井駅北口、ここで、集団接種を開始する準備を進めているところであります。小金井市の場合、1つの特徴は、医師会の先生方のきめ細かな、約50近くの、50か所もの診療所やクリニックでの個別のワクチン接種、プラス、駅前を中心とした集団接種会場、大規模接種会場とも言いますが、これを両方、ハイブリッドで行っているというのが小金井市のワクチン接種の特徴であります。今後も、この接種体制を、なかなかこれを維持するのはとても大変なことなんですけれども、奮闘いたしまして、医師会の先生方からも、薬剤師の先生方からも本当にお力をいただいて、市民の皆様方の命と健康、地域の医療提供体制を守り抜くために、これからも全力で頑張っていきたいというふうに思っております。どうぞよろしく願いをいたします。また、5歳、11歳からの小児接種のほうについても、もちろん、あくまでも希望者の方でありますけれども、接種は継続して進めておりまして、1回目の接種は1,753名、23.3%の児童の方が接種を終え、1,438人、19.11%の方が2回目の接種を終えられたという状況でございます。

また、経済対策、小金井市独自の市民生活や事業者の皆様方をお支える様々な取組にも全力で、今、取り組んでいるところであります。小金井市では、緊急対応方針というもの第7弾まで策定をいたしました。このコロナ禍によりまして、地域経済へ影響が及び、

先行きが見えない不安を抱えている方も多くいらっしゃいます。小金井市では、命、暮らし、地域市民サービスの基盤を守る取組を進めてございます。直近の取組といたしましては、昨年、経済対策として、全市民の方々に、1人2,500円分の「こがねい地域応援券」を配布させていただきまして、活用していただきました。最新の数字では、90%の方が、お配りした商品券のうち90%が活用されたというデータがあるというふうに、担当課から聞いておりまして、大勢の方々に御活用いただきました。ありがとうございます。小金井市としても、このような取組は初めての取組でございます。また、キャッシュレスボーナスポイントということで、P a y P a y ですね。キャッシュレス決済の P a y P a y を活用いたしまして、30%還元という経済対策も行わせていただきまして、大変多くの方々に御活用いただきました。令和4年度につきましても、現在、令和4年度の小金井市独自の経済対策につきましても、現在、検討しているところでございまして、6月2日から始まります第2回小金井市議会定例会に、経済対策で、令和4年度の第1弾となる取組を補正予算として検討させていただき準備をしているところであります。引き続き、少しでも飲食店や零細企業の方々、本当にコロナ禍の中で大変苦しい経営を余儀なくされておりますので、業者の方々の御支援や市民の生活を少しでもお支えできるように、引き続き努力をしてみたいと思います。

続きまして、環境対策についてです。本年1月1日に、小金井市は初めて、小金井市気候非常事態宣言というものを発出いたしました。これは御承知のように地球温暖化が大変深刻でありまして、気候変動、いわゆる気候危機といわれるものが、もう今や常態化している。一時期は異常気象、異常気象と言われていましたけれども、異常気象が完全に常態化している状況でありまして、私が子どもの頃、皆様方がお子様の頃のときの気候とは、今、日本はもう全く違う状況になってしまっています。こういった状況を打破するためには、もちろん、世界レベルでの、地球規模の取組が欠かせないわけですが、小金井市といたしましても、政府やI P C Cなど世界の取組とも連携しながら、排出ガス、温暖化、温室効果ガスの排出削減に向けまして、ゼロカーボンシティを目指してということで、市長と教育長で初めて連名での気候非常事態宣言を発出させていただきました。具体的にはどんなことをするのかということではありますが、市としてもCO₂の削減目標を定めましたので、これに基づいて努力をしてみたいと思います。具体的には、例えば、今年度からは、電気自動車や水素自動車などを購入された方には、初めて市独自の補助制度をつくりました。また、小金井市内の緑化です。緑化を推進するために、敷地面積が200平米以上の

建築工事を行う場合には、新たに緑化指導を行うということで、新しいルールを定めさせていただきます。また、環境教育が非常に重要と考えておりますので、子どもたち向けの環境のワークショップや森林教育などを行いまして、子どもたちも自分たちが将来のために何ができるか、こういったことを、対話をしながら、ワークショップをしながら勉強してもらい、そういうハチドリプロジェクトというものを教育長といろいろ考えてまいりまして、令和4年度から実施してまいりたいと思います。

次のごみ問題であります。長年にわたって、小金井市は可燃ごみの処理を市政の最重要課題としてまいりましたが、おかげさまで、日野市、国分寺市、小金井市の三市で構成いたします浅川清流環境組合におきましては、新しい可燃ごみ処理施設が本格稼働し、3年目を迎えたところでありまして、順調に稼働しているところであります。小金井市は、13年間にわたりまして、近隣自治体や多摩地域の可燃ごみ処理施設で市民の皆様方の燃やすごみを処理していただきました。13年間もです。広く支援いただいております。他市の方々に御迷惑をかけないように、市民の皆様方にはごみの減量に大変努力をしていただきました。ありがとうございます。その結果、小金井市は、人口10万人から50万人未満の自治体では、これは環境省が発表していますが、市民1人1日人当たりのごみの排出量が一番少ないんです。全国で1位。一番少ないんですね。また、リサイクル率も50%を超えまして、これが全国で2位。1位は鎌倉市です。鎌倉と小金井なので、1位、2位を大体いつも競争しているような状況であります。これはもう市民や事業者の皆様方の御努力のおかげでありまして、この状況をこれからも維持していけるように、どんどん取り組んでまいりたいと思っております。3Rということを念頭に置きまして、小金井市もごみ非常事態宣言という横断幕を約14年間ずっと掲げてきたんですが、これはもう下ろしました。浅川が稼働したので、もうこの横断幕は全て下ろしまして、新しいスローガンをつくりました。ごみゼロタウン小金井、ごみを出さないライフスタイルへということで、新しいスローガンを掲げております。どうか市民の皆様方におかれましては、これからもごみの減量、ごみの発生抑制に御協力をいただきたいと思いますし、小金井市といたしましても、フードロスの観点、食品が大量に廃棄されています。無駄が出ないように、あるいは、リデュース、リユース、リサイクル、こうした3Rを推進していけるように努力してまいります。また、不燃系のごみ処理施設も、現在、小金井市内2か所に建設を進め、準備を進めておりまして、二枚橋につきましては、粗大ごみ等の積替え・保管施設の建設が進みまして、もうほぼ完成間近です。今年の8月1日から、小金井市野川クリーン

センターという名前にしました。小金井市野川クリーンセンター、いよいよ稼働です。そして、貫井北町には、2、3年後に、新しい缶・ペットボトルの処理施設などを建設する、今、設計を行っているところでございます。

庁舎等複合施設につきましては、現在、市議会の皆様方で議決をされました決議や、市民の皆様、市議会からの多様な意見を踏まえまして、設計や建設の時期の見直しも含めまして、現在、市長と市議会が協議するために、意見交換の場を設置させていただきました。そこで市議会の皆様方と様々な意見交換をする中で、市長といたしまして、その一致点を見いだしまして、新庁舎・(仮称)新福祉会館の建設が確実に実施できるように全力で取り組んでまいりたいと思っております。私は市長といたしまして、これは最大公約の1つでありますので、老朽化も深刻、分散状態。財政的な課題もある。決して避けては通れない、絶対先送りしてはいけない新庁舎・(仮称)新福祉会館の建設は、何としても、市議会や市民の方の御理解を得られるように引き続き努力をしております。よろしく申し上げます。

また、4つ目といたしまして、行財政の改革につきましても今取り組んでいるところでございます。行財政改革2025という新しい計画を策定している最中でありまして、3つの柱でこれからいわゆる市役所改革に取り組んでまいります。1つは、「自治体DXの推進」。もう一つは、「公民連携アウトソーシングの推進」。3つ目が「公共施設マネジメントの推進」。この3つの大きな柱を3本柱としていまして、スマートシティ、そして、持続可能な自治体経営ができる、そういうまちを目指して取り組んでまいりたいと思います。これまでは、どちらかという量的な改革にかなり意識を、例えば、職員数を減らす、人件費を減らすとか、どちらかという量的な改革にかなり主眼を置いてきたということでした。もちろん、その姿勢は貫いていくことが必要ですし、失うわけではないんですけれども、それ以上に、やはりより明確な目的、何のための市役所の運営なのか、市役所というのは何のためにあるのか。それは、私は住民福祉の増進、常々職員たちに言っているのは、住民福祉の増進を行うのが基礎的自治体の使命です。そのことを達成できるような、そういう組織を目指して、私としては引き続き取り組んでまいりたいというふうに思います。自治体経営をしていく上で、市の人口は非常に重要なバロメーターです。国の人口も、御承知のように、もう減少局面に入ってしまったというし、高齢化を極めてしまう。生産年齢人口もどんどん減ります。毎年生まれてくる赤ちゃんの数も減少傾向です。小金井市も全国の傾向とそう大差はないんですけれども、しかし、小金井は今まだ人口が微増し続けているんです。まだ減少局面に入っておりませんで、小金井市の人口ビジョンによると、

今、人口が約12万4,000人なんですけれども、令和13年頃をピークとして、人口は横ばいから、そして、だんだん、だんだん、緩やかに減る。令和13年よりも前、令和8年ぐらいの年少人口というのがピークということでございまして、そこから緩やかに横ばいから減少していくということが推定されています。市長といたしましては、やはり生産年齢人口、15歳から64歳までの生産年齢人口の減少というのは、町の活力に関わる所でございますから、やはり若いファミリー世帯の方々、若い方々に選ばれる町、若い方々にも住み続けたいと願われる町であることがとても大切だと思っています。行政はたくさん課題を抱えておりますけれども、住みたいと願われる小金井、市民の力や地域の力をもっと生かされるまち小金井、こういった小金井を目指して努力しているわけですが、現状におきましては、今、ファミリー世帯の方々の転入超過が続いている状況です。大変ありがたいことです。令和2年度は、東京都内の62の自治体があるんですが、23区と26市、町や村、伊豆諸島を含めると、62の基礎的自治体があるんですけれども、小金井市は初めて、令和2年度、人口増加率が実は1位になりました。小金井は人口が増えているんですね。令和3年度、若干順位は落ちましたけれども、人口の増加率でもまだ5位ということでございます。今、小学校では、普通教室の確保に大変苦勞しております、人口増、35人学級、そして、学童保育の利用を希望する方々が増えていますので、どんどん施設が足りなくて、学校の空いている教室をお借りしております。そういったこともありまして、小学校では教室が足りない。クラスが足りない、教室が足りないという、これは市長としてうれしい、ありがたいことなんですけれども、そういう状況に小金井市はあるということでもあります。

もう少し私のほうから冒頭お話ししたいことがあるのですが、もう2時半になりましたので、この程度にとどめますが、せっかくなので、東小金井駅の北口におきましては駅周辺のまちづくりの話をしたと思います。おかげさまで、武蔵小金井駅の南口の再開発事業は、2年前、第2地区が完成いたしまして、南口につきましては、予定されていたまちづくりを終了、完成しました。大変多くのにぎわいを見せていると思います。東小金井駅の北口では、区画整備事業を毎年毎年行っております。現在、財政面、それから資金面の進捗率で言いますと8割を超えてまいりまして、かなり目に見える形で駅前が変わっています。北口のロータリーの供用を開始いたしまして、ロータリークラブの方から、三面の立派な時計を寄贈いただいて、設置しました。また、小金井公園で発見されたとても貴重なコガネイ・ウスベニザクラという貴重な桜を5本、苗木を植樹しました。また、武蔵野

の野草や、何種類ものツツジを植えたんです。これが5月には見事に満開になりまして、北口も、少しずつであります、町が変わりつつあり、そういった町の中に少しずつ魂が入ってきたなと思っております。これからも、駅周辺のまちづくりにつきましても、しっかり再開発を進めてまいりたいというふうに思っております。

また、待機児解消につきましては、市長に就任させていただいたときに、保育の定員数は1,700人でした。今年の4月、4,000人です。約4,000人の定員でありました。7年前、市長に就任したときは、257名の待機児童がいて、多摩地域ワーストワンでした。今年の4月1日の待機児速報、おととい発表したんですが、11名にまでおかげさまで減少してまいりました。ほぼ待機児童の解消が達成されつつある。こういう状況であります。これからも、やはり、若い方々からも選ばれるまちであり続けたい、また、そうなるためにも、子育て・子育で、教育環境の向上や、まちの魅力をしっかり高めていくことがとても大切です。小金井市の持ち味をしっかりと高めていくことが大切だと思っておりますので、そういった市政を、市民の皆様方とも共有しながら、一緒に議論しながら、市政を前に前に進めて参りたいと考えておるところであります。お伝えしたいことはいっぱいあるんですけれども、この後、約1時間半、皆様方とゆっくりいろいろな意見を聞かせていただきながら、有意義な時を一緒に過ごさせていただきたいと思っておりますので、どうぞ率直な御意見を、お声をお寄せください。皆様、どうぞよろしく願いいたします。ありがとうございました。

○司会者

それでは、意見交換のほうに移らせていただきたいと思います。フリーテーマという形ではあるんですけれども、先ほど、冒頭でありましたが、今回、第5次基本構想に基づきながら様々な取組がスタートしているということございまして、今、お手元にこういった第5次小金井市基本構想ということで冊子のほうがあるんですけれども、この中の6つの政策の柱に沿って今進めているという状況でありますので、この各分野ごと、6つの政策の柱の各分野ごとに一定の時間を設けながら、幅広い分野の様々な御意見や御提案をいただければという形で進めていければと思っております。具体的には、こちらの冊子の14ページから、例えば、14ページには、環境と都市基盤ということで、自然と都市が調和した人に優しい町ということで始まっております、その後、次の15ページになると、今度は地域と経済という形でどんどん6つ政策が続いていきます。ですので、この6つの政

策の各分野ごとに、それぞれ自由に、フリーに御意見いただきながらお答えしていくという形で進めていければと思っております。よろしく願いいたします。今回、たくさんの方が御参加いただいておりますので、なるべく多くの方に発言させていただきたいと思しますので、質問については、なるべく要点を絞っていただいて、二、三分程度まとめていただくという形でお願いできればというふうに思っておりますので、よろしく願いいたします。それでは、まず、1つ目。そうしましたら、この6つの施策の前に、まず、コロナ全般で何か御意見とか御提案とかそういったものがございましたら、お伺いしたいと思いますけれども。ご意見ある方。

3 懇 談

○西岡市長

マイクを。

○司会者

マイクなくて、調子がちょっとおかしくて。すいません。

○市民A

コロナはみんな非常に興味を持っているんですけども、例えば、市報で、小金井市にどのぐらい患者が出ているとか、年齢別にどういうふうに出ているとか、地域別にどういうところに出ているとかって、多分、僕の記憶では、この1年間に1回もそういう発表はないと思います。市報は月に2回発行してるんだけど、全国的にこの2年間非常に話題になっているのに、自分の地元で、足元でどうなっているかって全然分からない。東京都がどうだというのは、テレビとか何とかでやっているから分かるけれども、自分が住んでいるこの周りがどうなっているというのが分からない。市報を発売しているのに、何でそんな単純なことを市報で発表できないのか。

○西岡市長

お答えします。市報では確かに、毎日毎日の累計感染者数はまだ出してないです。そのかわり、すいません、誠に申し訳ないんですが、ホームページで毎日情報を更新しており

ます。そして、その感染者情報というか、これは東京都から小金井市に送られてきておりまして、男女別、年代別、こういった可能な限り東京都から来ている情報で公表できるものは、1週間単位でまとめて、小金井市のホームページで公表しています。毎日毎日の感染状況は、大手新聞、メディア、6紙が多摩版などを使っただいて、毎日広報していただいている状況でございます。お話をされましたように、「市報こがねい」ですと、どうしても原稿の締切りがあって、発行するとすると、ここに出される情報というのが1週間前とかの情報になってしまって、最新というには、ちょっとどうしても時間軸でできちゃうんです。それもありまして、大変恐縮ですが、ホームページで毎日公表していると。

○市民A

ホームページを見られない人もいるんですね。

○西岡市長

おっしゃるとおりですね。

○市民A

年寄りは見られない。それだから、毎日じゃなくても、ひと月分で分析したあれは出せるじゃない。年齢的にこうだとか、地域的にこうだとか。半年、1年前と比べてこういうふうになったとか、そういう分析資料を載せることは、速報性以外にも必要。たまたま、僕が取っている日経新聞は全然載せてないからね。市町村でどういうふうに患者が出ているか。

○西岡市長

分かりました。それでは、ホームページを見られないという方々のために。これは常に私たちは意識していることなんです。市の情報発信。私、市長になって常々、情報発信が大事だということで、どうしても、お金もかからず、迅速な情報発信っていうのは、ホームページやツイッター、今後、LINEなんかも活用しようと思うんですが、どうしてもデジタルといいましょうか、こっちのほうに走ってしまうんですよ。しかし、デジタルデバイドということで、インターネット環境にない方もいらっしゃるんで、その方々ともいつもスマホを使いこなせる方とはどうしても情報の格差が出てしまうという大きな課題

があることは十分承知しています。今、御意見いただきましたので、「市報こがねい」の中で、月1回とまで行けるかどうか分かりませんが、累計感染者数の情報などについては、どのような広報の載せ方ができるか検討させていただきたいと思います。よろしく願いいたします。他にあればどうぞ。今発言された方、他にありますか？ 取りあえずいいですか。

○市民A

他のテーマでもよければ、本当はもっと重要なのが1個あるんだけど。

○西岡市長

いいですよ。後ほど、また何度でも聞いてください。

○市民A

これもテーマごとにやっているんですよ。

○西岡市長

そうですね。後ほど。どうぞ。

○市民B

マイクなくていいですね。テーマごとというか、コロナの……。

○西岡市長

コロナです。

○市民B

最初にお話が出たので、コロナを含む全部に関わることなので。市長が先ほどお話ししましたけれども、住民の福祉の増進です。これは行政の問題で、一番重要になるのは市民であり、個人商店なり企業であり、そういうことをおっしゃっていると思うんですけども、それに対してあまりにも不親切。その中でコロナのことがあります。例えば、今、市報が出たので、3つちょっと例を出したいと思います。市報で、逆にですね、いろ

いろな情報発信、もしくは、受ける側にあって、いわゆる今回のものは、電話でも受け付ける、Eメールアドレスでも受け付ける等々してくれているんですけども、逆に、そのような幅広い受付をしてくれてないんです。違う言い方をしますと、Eメールアドレスで受け付けてくれないんです。それはどういうことかということ、今のはまた逆、違うことになるんですけども、電話というのは、例えば、簡単に言うと、9時・5時じゃないと受け付けないでしょう。9時・5時で電話できない人はどうするんですか。それから、もっと言ってしまえば、難聴の方はどうするんですか。というような気遣いが全くない市報の作り方なんですよね。いわゆる、いろいろな多様、そういう意味で多様ということがあると思うんですけども、そういうものに対応するということが大切だと思うんです。昨今、例えば、講座の申込みとか何かということがすごく差はあるんです。実は、私はやっぱり数か月前から、各公民館の部分指摘しています。それをうんと言って載せてきているところもあるし、具体的に言ったら南分館では載せてきています。南分館の申込みが、電話、もしくは、それしか申し込めないの。私は南分館、むちゃくちゃ遠いですから、じかに行くのは大変だし。例えば、そういうのを受付がまず、大切ですよ。それを指摘しているのにもかかわらず、そういうことが一切、一切、やってくれないでしょう。やってこないところがたくさん。これは行政ですよ。これが1点です。だから、市報の見直しを、そういうことを見直していただきたいんですけども、住民に対して向いてないということの2点目。ちょっとこれは具体的な例がありますけれども、去年の12月に、地域史講座というのをやりました。生涯学習課さんが主催のものかな。いわゆる数年前に市史の編さんをされたという、これの記念行事的なことだと思うんですけども。現代史から始まる、近現代史から始まりました。数講座を設けている。近現代史のときに、例えば、先ほどのいわゆる企業のことに関わるんですけども、簡単に言うと、「コガネイ」という会社があります。昔、「小金井製作所」といっていた会社です。それを、私から言わせると、その講座の中では、小金井製作所ということで紹介しました。でも、それは30年以上前に「コガネイ」という社名に変えているんです。それは、お話になっているのは、市史の編さんに関わった早稲田大学の文学部だと思いますけれども、それを私は講座の途中で指摘しました。生涯学習課の方が出てきて、理解されてなかったの、よく調べてください、間違っただけの講演をしていますと。それに対して、まあ、端折って言いますけれども、実際には間違っているんですけども、一切その回答もないし説明もないです。何を言いたいかということ、もう30年以上前から社名は変わっているんです。行政として、いわゆ

るコガネイという会社は、例えばですよ、小金井市が主要納税地なんです。主要納税地の企業に対して社名を間違っているということは大変失礼な話です。それを私は指摘しているんです。1つの例で、小金井製作所というふうにインターネットで検索してくださいとはっきり関課長に言いました。そのときは、課長は関さんでしたから。違う会社が出てくるんです。そういうことさえ分かっていない。この会社が出てこないんです。緑町にある会社は出てこないんです。そういうようなことの指摘をして、それを市民が指摘をして、それに対する回答が一切ない。こんな対応で失礼じゃないか。ましてや、主要納税地であるその企業様に対して大変失礼です。住民が中心だ。どこが住民なんですか。私はそう思います。それが2点目です。3点目。2月か3月に、日曜議会というのが、インターネット中継がありますよね。いらっしゃったから分かります。冒頭から1時間ほどして、市長の答弁の中で、やはり企業を呼び捨てにするような回答の仕方をしていました。非常に私は気持ち悪くなりました。具体的には、「たましん」というよう呼び捨てる言い方をしました。「たましん様」とか「たましんさん」とかいうふうに言うのが普通だと思います。

○西岡市長

以上ですか。

○市民B

そういうようなことが、全てに対して、市長はそういうふうにおっしゃっているけれども、根本的に向いてないんじゃないかなと。どちら側を向いて走ってる、どちら側を向いてお話をしているのかな。基本的に間違っている。そういうふうに思っています。

○西岡市長

以上でよろしいでしょうか。

○市民B

はい。

○西岡市長

コロナ対策とはちょっと違う側面の御質問が多々含まれているんですけれども、住民福

社という幅広い観点からという御質問なので、お答えをさせていただきます。「市報こがねい」に掲載している様々な情報発信の中で、私どもの受け側として、電子メールなども活用して、電話だけではなくて、お忙しい中、お仕事をされている方にも配慮した、配慮が必要じゃないかということは、率直に、おっしゃるとおりだと思います。

○市民B

もしくは、電話を使えない方がいらっしゃるんです。身体上。

○西岡市長

今、回答しているところなので、お話を聞いてから、もう一回発言していただけますでしょうか。一生懸命回答します。その後の再質問は何度もしていただいて構いませんので、お話は聞いていただいていいですか。なので、私どもとしても、民間事業者、団体の場合は、小金井市としていかんともしがたい部分がありますけれども、市の受付などについては、基本、メールを活用していますよね。

○司会者

できていないところもあります。

○西岡市長

できてないところもある。私ども配慮が足りないというのは率直に認めますので、ここは努力をさせていただきたいと思います。申し訳ありませんでした。それから、地域史講座で、ちょっと私はこの講座、早稲田大学の先生が株式会社コガネイ様のことを小金井製作所と以前の名称を言っていて、指摘したけれども、修正もないし回答もないということについては承りました。現在は、課長職は関で、替わっておりませんので、私のほうから、明日以降になりますけれども、御質問者の方のもしよろしければお名前と住所、お電話番号を教えていただきまして、担当課長から現状について御連絡をさせていただきたいと思います。企業名が新しくなっている点は、御指摘のとおりだと思います。小金井製作所は以前の企業名称であることは私も承知しております。この点、間違っているならば間違っているし、修正をする必要があるし、適切な対応を取るように私のほうから責任を持って担当課長にはお伝えをさせていただきますので、御理解をいただきたいと思います。日曜

議会の中で、私自身が多摩信用金庫様の企業名を呼び捨てしていたのは失礼ではないかとありますが、根本的に、住民福祉の増進の方向に向かっていないのではないかという姿勢が問われていますが、私は、改めて申し上げますが、基礎的自治体の使命は住民福祉の増進、市民福祉の増進にあるということを私は確信しておりますし、そのことは市政方針や基本方針、それから、小金井市役所の人材育成基本方針にも明記をさせていただきました。お手元に第5次基本構想というものをお配りさせていただいています。これは令和3年から令和12年までの向こう10年間にわたって、小金井市が作成をいたしました最上位計画でございますが、これは小金井市の最も重要な、一番最上位の計画です。この中に書いてございますが、基本構想の目的と意義というのは、これは市民の幸せの増進を図ることと明記をさせていただきました。この姿勢に変わりありません。そのことが、企業の名称を使う際に呼び捨て的な言い方というのは失礼だということについては、それは受け止めさせていただきたいと思っておりますし、今後、改良できるように努めてまいりたいと思っております。私からは冒頭以上です。

○市民B

よろしいですか。2点目に関して関課長より連絡するというお話でしたが、1度、2度、メールのやり取りをしています。それに対して返信がない。それを秘書課なんですか。それを転送します。そうすれば、やり取りが分かると思います。そのメールアドレスに対して回答していただいてもいいですし、それが1つ。それは私個人の問題ですけれども、何十人も前にしての講座で間違っただけの発信をしたまんまになっているんです。先ほども言いましたけれども、初回の講座のときだったんです。だから、2回目以降の講座のときに、それを訂正すればいいじゃないですか。それもほったらかしている。違う言い方をすると職務怠慢になっている。そういうようなことがあったんだということで、2点目としては、じゃあ、それ、間違っただけを受けた人に対して、どういうふうに訂正をするんですかということ。これは大切だと思います。それから、よろしいですか。よろしいですか。先ほど3点目に関して。企業様を呼び捨てにしているということに対して、実は、ある市長さんが言いました。YouTubeで。見る前に、胸を張って、このYouTubeは全世界に発信されているんですと。それはもう数か月たっているんで、実は私も年齢柄、たましんのそれなりの立場の方が同級生にいますので、見ていただきました。はっきりは言いませんでしたけれども、非常に気分を害すんです。あんな言い方をされると。いいで

すか、それを世界に発信しているんですよ。そういうものをよく受け止めていただきたい。
以上です。

○西岡市長

2点目につきましては、改めて、私も内容を担当課長からよく話を聞かないと分かりません。なので、課長にはお伝えします。そして、適切な御返答ができるようにさせていただきたいと思います。よくあるのは、このことであまり時間を取りたくはないんですけれども、残りの時間が短いので。当時のことを言えば、小金井市史に関する御講演なので、その時点で小金井製作所という名前であって、その呼称を使った可能性が否めない。今はコガネイですが。だから、その辺の詳細は、これは市役所の職員ではなくて早稲田の先生がお話なされたということなので、当事者の方にまで取材をしないとその真意が分からないところもありますが、いただいた御指摘については、明日以降、私のほうから課長にお伝えしますので、御返答できるように努めさせていただきたいと思います。また、多摩信用金庫様との関係ですが、小金井市は多摩信用金庫様とは大変深いお付き合いで、私自身も会長、専務、大勢の方々とお付き合いをさせていただいております。先日も、理事長の方々がわざわざ小金井市役所に来られまして、私もいろいろ意見交換をさせていただきました。市の職員をたましんに毎年毎年1名派遣させていただいて、人事交流を市長になつてからさせていただいております。非常に友好的な関係にあるたましんの皆様方、多摩信用金庫様なので、私が企業名を使う際には、非常に近い関係にある関係もありまして、俗に言う皆様方が「たましん、たましん」と愛されている事業ですから、そういうニックネームといいますか、愛称を使わせていただいた次第ですが、それが不愉快だというたましんの方からの御指摘があったということであれば、そのことは受け止めさせていただきたいと思います。以上です。

○市民B

1点目に関して、回答が1つありません。間違った講座を受けた数十人に対して、どのような訂正をするんですか。

○西岡市長

ですから、その点は担当課長と話をさせていただかないと、私も状況が分からないので、

返答させていただきませんかと言っています。ここでは分かりません。今、課長とこの時間を使って連絡を取ることは適切ではないと思います。

○市民B

分かりました。

○西岡市長

明日以降にさせていただきたいと思います。よろしいでしょうか。

○市民B

はい。

○司会者

それでは、ほかにコロナ関係で御意見ございます方いらっしゃいますでしょうか。

○西岡市長

何でもいいです。どんなことでも結構です。

○市民C

市役所はいつごろ建つんですか。

○西岡市長

テーマごとに分かれていまして、今、新型コロナウイルスをテーマとしているので、後ほども承りますが、新庁舎・(仮称)新福祉会館につきましては、私としては、最速、最短で建設したいということで、ずっとこの間、いろいろな準備をしたり、市議会の方々とも議論してまいりましたが、市議会の方々からも実に多様な御意見をいただいたところです。今、明確に何年何月に建てますとお答えすることはできないんですけれども、実施設計まではもう終わりました。設計は。なので、あとは設計や竣工時期、建設コストの在り方について、さらに市議会の皆様方と合意形成をしっかりと図らせていただく必要があると判断しておりますので、今、市議会の方々との意見交換の場が始まりましたので、その中で一

致点を見いだしていきたいと思っています。私の思いとしては、可能な限り最速で、最短で建設をすべきだと思っているんです、私。しかし、市議会の中にはいろんな意見があるんですね。なので、そういった御意見を踏まえながら一致点を見いだしてまいりたい。いたずらに先送りしたり、遅らせたり、そういうことをしようという意思是僕の中にはありません。設計まで終わりました。あとはもう建設をするという段階に入るんですけども、建設に入る段階にあって、今、市議会の方々とぎりぎりの調整と言いましょうか、話合いをさせていただいているという状況です。

○市民C

私、梶野町に住んでおりまして、梶野町の老人会に入っているんです。その老人活動を通じて、私たちが生きている間に市役所が建つのか、今日、市長さんとの会談があると言いましたら、老人会を代表して聞いてきてということでしたので。

○西岡市長

ありがとうございます。

○市民C

皆さんに報告いたしますため、何か市の中で市長さんに反対している方がいたり、何かそういうことで難しいのかなってみんなで話をしていたんです。私たちが生きている間に。どうぞよろしく願いいたします。老人を代表して。

○西岡市長

ぜひ早く市役所を建設してほしいという御意見と受け止めました。ぜひそういった声を発していただきたいと思います。ありがとうございます。市民の方、私のところにも小金井市庁舎問題、もう長い間の課題です。平成元年ぐらいからずっと課題なので。もっと言えば、昭和の時代からずっと課題なんですね。なので、この長年の課題をぜひ解決させていただきたい。小金井はごみの問題があつてか、JR中央線開かずの踏切の問題であるとか、武蔵小金井駅の南口のまちづくりの問題であるとか、長年の課題を1つ1つ丁寧に解決はしてきていると思うんです。私も市長に就任して、この中で新しいごみの焼却場ができましたし、これはもう、日野市、国分寺市、多摩の地域の皆様方のおかげです。それか

ら、武蔵小金井駅南口の再開発。やっと完成しました。最初の構想から半世紀、50年たっています。やっとここで完成できました。高架線についても開かずの踏切が解消されていきました。そういった状況の中で庁舎問題というのも小金井市特有の大きな課題の1つでございます、ぜひ解決できるように力を尽くしてまいりたいと思います。よろしくお願いいたします。

○市民C

ありがとうございます。

○司会者

続いては、一旦、コロナの課題のほうは、また後ほどでも大丈夫ですので、言っていただけだと思います。政策の柱に沿って御意見等いただければと思うんですけども、まず、1点目、環境・都市基盤ということで、主には環境の問題であるとか、またはごみの問題ですね。あとは、まちづくりの、まち中の再開発、そういった形の関連で御意見等、御提案がございましたら賜りたいと思います。先ほど、冒頭に申し上げ忘れてしまったのですが、もし差し支えなければ、冒頭でお名前だけおっしゃっていただければありがたいかなと思いますので、よろしく……。差し支えない範囲で構いませんので、よろしくお願いいたします。 それでは、今の分野について、御提案、御意見ございますでしょうか。

○市民D

東町〇丁目の〇〇と申します。ちょっとこれに当たるかどうか分からないんですが、対象になる部署はまちづくり推進課なんです。私が今住んでいる東町〇丁目に、昨年、JAのメモリアルセンターというのが建設されました。これ実はもう完成しているんです。ただ、その中で、過程の間にいろいろ問題があったんですよ。市役所のほうに相談に行ったんですが、中途半端なんですよ。何の問題かと言いますと、あそこの施設、農協さんが説明に来たときに、チラシの中に、メモリアルセンターの資材倉庫、遺体安置施設、こういう形でチラシがあったんです。そのチラシだけ配布して、そのまま終わっちゃったんです。それはおかしいと思って、小平の建築事務所のほうに行ったら、まだ書類が出てないという話だったんです。それで、まちづくり推進課のほうで確認したら、前もって農協、あるいはそれを請け負った建設会社が推進課のほうに来られたと。その話の中では、

資材倉庫であると。遺体安置という話は聞いてないという話になったんです。それで、申請が、その後、その建設会社から東京都のほうに申請の代行業者があるんですね。そこに申請したところには、推進課と建設会社が交わした議事録がついていたと。その中でも遺体安置ということは書いてないと。これ、私のほうがセンターと、要するに、代行業者のほうに確認したら、そういうことなので違法性はない。確かにそうなんです。建築基準法から行くと、調べたら、あくまでも違法ではない。違法ではないんだけど、遺体安置ということで明確に表示しているわけですよ。それで、現場で建設している業者に、現場監督に聞いたんです。じゃあ一体どういうことをやってるのと言ったら、遺体安置ということは聞いていませんと、こういうふうには回答をもらっている。一番最初にチラシを配り来たときは、JAとその建設会社の方は一緒に来たんです。チラシには遺体安置と書いてあるんです。実際に建設している現場監督はそれを知らないと言う。この話を、先ほど申し上げた市の当時〇〇さん（当時のまちづくり推進課職員）という係長ね、今は替わっちゃったんですよ、その方にお話ししたら、私も知りませんと。それで、議事録をじゃあ取ってくださいと言ったら、向こうとしては一切議事録というのは取らないと。市役所では、そういう打合せしたときは、議事録は作らないというふうにおっしゃった。僕は初めて聞いたんだよね。議事録は作らないんですよ。市は。時系列はこういう書いたやつがあるんですよ。それで、何でここで言ったかというとな、この話、去年なんですよ、スタートが。議会でこれを聞いたと言うんですけども、聞きました？あの、共産党の森戸さん。

○西岡市長

それで御質問は一応終わりですか。まだ最後までお話聞きますけれども。

○市民D

いや、だから、細かい話になってしまうと、全部これ時系列で書いてあるんだよ。

○西岡市長

時間があるので、この場でその詳細なやり取りをしていくとかなり時間を費やしてしまうことになるので、もしよろしかったら、この会が終わった後、私は残りますので、時系列で書いたメモとか、確認したいことをちょっとお聞かせいただいてもいいですか。

○市民D

いいですよ。僕はそのね。

○西岡市長

ただ、この時間、この場で、この市民と市長の意見交換の場で、これを、個別なことをやり取りすると、ちょっと時間がもったいない。

○市民D

ちょっとごめんなさいね。これ個人的な問題も1つなんだけど、決められたルールをやってないわけだから。これ、市の担当課、係長が逃げてしまったんですよ。もし何かやってほしければ、市長に言って、投書したらどうですかと逆にアドバイスをもらったわけです。だから、僕は今回出てきた。だって、進まないんだもん、それ以上。

○西岡市長

議事録は、事業者と打合せの場合は、恐らくこれはしっかりと取る。要点議事録も含めてですけれども、市の行う開発行為の許可とか、事業者との話合いの際は、議事録は残すものです。残さないというふうにも担当職員が言ったとすれば、非公式なものとかですね、正式なものではない、いわゆる事前相談であれば残さない可能性もあるんですが、建設に向かっていく公式な、といいましょうか、そういう段階にあるものであれば、議事録は通常残すものだと思います。

○市民D

だから、建物を造る業者が代行業者に、正式に東京都へ提出するときに、打合せ議事録書として、小金井市のまちづくり推進課のほうと打合せしたと議事録が出ている。

○西岡市長

あと1つ確認したいんですが、今日、〇〇様にここに来て市長に直接、市民と市長の座談会に行って……あ、〇〇さん（市民D）ですね。失礼しました。〇〇さん（市民D）に直接ね、市長のところに行って話をしてくださいと言ったのは、担当職員ですか。市の職員ですか。

○市民D

担当の係長です。〇〇さん（当時のまちづくり推進課職員）。

○西岡市長

この場で市長に言ってほしいと。

○市民D

要するに、向こうは議事録を取って中身を確認する協議はないと言うんです。やりたければ御自分でやったらどうですかと言うわけ。そうすると、手順としてはそれしかないわけです。それで弁護士さんに話したら、それはもう無理だったらいいと。裁判所に言って、情報開示させるかという話なんです。だって、市の役所の方にそれ言われたら、僕ら市民としてはどうしてもないわけです。

○西岡市長

そのお話を伺ってですね、これはまた……。

○市民D

これはいいです。後で話ししましょう。今ここでやってもしょうがないから。

○西岡市長

まちづくり推進課の担当と、私も、今御指摘いただいたJ A東京むさしさんの東町メモリアルセンターに関する建設工事の現状、今御指摘いただいた点について、担当課からヒアリングをさせていただいて、市長として、これまでの推移、経過については把握をさせていただきます。その上で、御近隣になります〇〇様（市民D）も含めて、地元近隣の方々への対応について、それがどういう状況だったのかしっかり把握させていただきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

○市民D

この問題は大田区でも大きな問題になったんですよ。御遺体安置という形で。だから、

僕はできることに対しては別に反対じゃないんですよ。なぜ隠すのかと。ここが問題なんです。

○西岡市長

確認ですが、今、もう建設工事は終わった……。

○市民D

終わって、もう出ています。

○西岡市長

終わって、もう稼働しているんですか。

○市民D

稼働しています。

○西岡市長

遺体安置所はあるんですか、ないんですか。

○市民D

知りません。

○西岡市長

それは教えてくれないんですか。

○市民D

だから、あると言ったり、場所も違うんです。聞くたびに、本店で行くところ側にある。その後、こっち移りました。それで、建築会社は知りませんと、こう来た。こんなばかな話はないですね。確認申請は出しているんだから。

○西岡市長

それでは、この件については、担当課とやり取りをさせていただいて、〇〇様（市民D）のほうにも、私なり担当から追って御連絡をさせていただきたいと思います。今日、この後、この会が終わってから。

○市民D

ごめんなさい。こんな話をするつもりはなかったんですけどもね。

○西岡市長

もし、頂ける資料があるなら、その資料も参考に頂ければ、今後の担当課と話をするときにもスムーズになるかなと思いますので、よろしく願いいたします。

○司会者

ありがとうございます。では次。今回の環境と都市基盤につきましては、一旦よろしいですよ。続いてですね……。あ、よろしいですか。

○市民E

すいません。3点ほど質問したいと……。

○西岡市長

お名前をお願いします。

○市民E

〇〇と申しますが。すいません。市民と市長の座談会で、市民としてというところで、小金井公園周辺ということで、私は西東京市在住なんですけれども、東小金井の駅を使ったり、ちょっと小金井のほうのいろいろな施設も使っている関係から、今日は出席させていただきました。

○西岡市長

分かりました。どうぞ、いいですよ。

○市民E

1点なんですけれども、今度市役所ができる場所なんですかね。リサイクルセンターって前あったと思うんですけれども、今、そちらのほうを閉じてしまったように聞いているんですね。実は私、あそこで自分の自転車を中古品で買ったりして、大変お世話になっているのもあって、結構、市民の方々のリサイクル品の中古のものがあったと思うんですけど、閉めてしまった理由というのは、多分、市役所が建つからという推測は立つんですけれども、それに代わる施設みたいなのはできないのかなということが1点です。

あと、2つ目が、これは多分非常に難しい話であって、実現は難しいなと思うんですけれども、今日、たまたま市報をいただきましたらC o C oバスのガイドラインのサブコメントのやつが出ていましたけれども、それぞれの市のほうでコミュニティバスを運用されていて、比較的交通に不便な道の狭いところにバスを走らせていると思うんですけれども、私の住所は芝久保町〇丁目というところで、多摩の自転車道のところに近いです。中央線の東小金井に行きたいと思うときに、これは以前、何年前かな、この懇談会でもお話をさせてもらって、民間のバスが東小金井から花小金井までできないのかという話はしたんですけれども、東小金井と花小金井ではなかなか町の大きさも違うので、小さめの町なので、そのバスのことは、結局民間のバスも手は出さないしということで。コミュニティバスを1つの自治体が運営するというのが多分原則であり、いろいろな費用配分とか収入配分が難しいから、多分無理だと思うんですけれども、小平とか西東京とか武蔵野とか、こちらの小金井とか、4市にまたがっていると思うので厳しいとは思いますが、そういうコミュニティバスって、そもそも論なんですけれども、共同で市がコスト負担をして運行するというのはどだい無理なんですかね。そういうことに対する何か、これまで検討されたことがあるのかとか、あるいは、そんなのどだい無理だよというのかちょっと私は分からないんですけれども、そういうような検討の余地もあるのであれば、どうなのかというのをちょっと質問させてもらうのが2点目です。

それと、東小金井の今の駅の北口の区画整理の話があるんですけれども、いろいろと少しずつ変わっていくというのは私もたまに利用しながら思うんですけれども、武蔵境側のほうがだーっと空いてきて、こう、がらんどうになっているといたしますか、空き地になっていますよね。あそこは何が建ってどうなるのかというのは、私、情報とった限りでよく分かってないので、何か情報があれば教えていただきたいと思います。以上3点、よろしくをお願いします。

○西岡市長

ありがとうございました。まず、リサイクルセンター。これはですね、小金井市シルバー人材センターが運営していたものです。正確に言いますと。市が運営していたものではありません。そして、シルバー人材センターの中で、庁舎建設があるということも含めて、その御議論をずっと長い間いただいてきた結果、閉鎖するということになりました。これは中止ではなくて、事業所としては閉鎖をするということで決定したことでございまして、当該場所は、新庁舎・(仮称)新福社会館の建設用地でございますので、その作業にこれから入っていこうという状況です。なお、小金井市としては、新しいリユース事業を二枚橋で行わせていただきます。小金井市の二枚橋焼却場跡地——場所はお分かりでしょうか。

○市民E

はい、分かります。

○西岡市長

昔プールがあったところですね。私が子どもの頃。煙突があってですね。

○市民E

手前ですね。あのところですね。

○西岡市長

そこには粗大ごみ積替え・保管施設というのを建設しています。これは市民の皆様方もぜひ知っていただきたいので、せっかくなので、私も実はこの話は聞きたかったのでお伝えしたいんですが、予算書の資料がどこかにあると思うんですけども。「小金井市予算の概要」。「小金井市予算の概要」というのを見てください。この中の16ページ。下から2番目。「不燃・粗大ごみ積替え・保管施設運営管理委託料」とあります。約8000万円ということですね。これを建設するには、上の「清掃関連施設整備に要する経費」というのがありまして、不燃・粗大ごみ、資源物の処理、その他にクリーンセンターにて9億円の予算を計上してございます。総額12億円ぐらいは建設費になっているんですが、その運営費を計上しています。この中で、受託者の方々に、民間事業者の方に、施設の運営

をお願いします。その中で粗大ごみとして出されたもので、再利用が可能なものをリユースいたします。現在、そのリユース事業については、分担の検討を進めているところでございまして、7月ぐらいになれば、具体的なリサイクル事業の概要を発表できると思っております。施設自体は8月1日からの稼働で、もう間もなくですね。今、ぎりぎりの調整をさせていただいております。自転車という品目で、そこで出せるかどうか、それは難しいかなと思っているんですけども。

○市民E

おっしゃるとおりですけれども、いろいろなものがあつたので。

○西岡市長

しかし、先ほど申し上げた、粗大ごみとして出されたもので再利用のものについては、恐らく、かなりお安くと言いましょうか、お手頃なお値段で販売するような事業スキームなのではないかなという想定でございますが、それは市で発表しますので、そちらをぜひ御覧いただきたいと思えます。それから、C o C oバスです。広域で自治体、A市とB市と、あるいはA B Cと広域でコミュニティバスを運営している例というのは、もしかしたら全国にはあるかもしれません。しかし、小金井では、この辺りではありませんで、各市がそれぞれ。しかし、相互乗り入れというのはあります。ちなみに、武蔵野市が運営しているムーバスは東小金井に入ってきています。非常に便利です。これを利用している方は大勢いらっしゃいます。ということで、小金井と西東京と武蔵野で、合同で、例えば一緒に出資をしてコミュニティバスを走らせようということは今のところないんです。想定として。しかし、相互乗り入れというのはあります。なお、これは民間事業者の方々のお話になるんですが、東小金井と花小金井を結ぶようなバスというのは、コミュニティバスではなかなか、現状、そういうルートは今想定はしていないんですけども、民間事業者の方々の場合は、どうしても採算性というものがあるんですよ。

○市民E

そうですね。

○西岡市長

それから、需要と採算性というものがあるんだろうと思いますし。そういうことで、最近、バス事業者さんは、運転者さんも含めて人材を集めるのが、ものすごい大変らしくて。

○市民E

そうですね。相当大変だと思います。

○西岡市長

非常に御苦労されているようです。そういうことの中では、東小金井と花小金井路線と
いうのを結ぶのはなかなか……。武蔵小金井駅から花小金井はすごく良いバスがいっぱい
あるんですね、実は。

○市民E

そうですね。バスが清瀬、東久留米含めてあるのは知ってますけど。

○西岡市長

そういうのがあるものですからね。難しいかなと思います。

○市民E

あの線があるので、厳しいと思うんですけど。

○西岡市長

それから、東小金井駅の北口のどちらかという東側のほうの空いている土地です。これは大きく言うと主に3つの種類に分かれていまして。土地がですね。1つは、都市づくり公社というのが所有しています。また、小金井市が所有しております。小金井市土地開発公社というのが所有しております。もちろん、民間の方々が所有している土地もあります。こういった土地については、市としては有効活用をしっかりと図っていきたいというふうに思っていて、今まだ現時点で、A区画、B区画がこうなりますというので、区画整理の関係の換地の関係ではあるんですけども、先ほど申し上げましたように、都市づくり公社などが保有している土地についての有効活用、今後の方針はこれからの活用方針になりますので、今現在は検討中というふうに御答弁させていただきたいと思います。以

上です。

○市民E

あとあれですかね。駐輪場が、今、本屋があった隣のところにちょっとあって、あとは駅前のところにちょっとあると思うんですけども、結構遅い時間に駐輪いっぱいだったりして、駐輪場というのは、あれも全部なくなってしまうんですか。

○西岡市長

はい。駅のロータリーに隣接している民間の駐輪場は、いずれは閉鎖となりますが、東小金井全体で言いますと、全部で駐輪場の台数が、民間のなくなってしまう土地を除いたとしても、四千数百台でありまして、現在、駐輪でお借りしている方々が二千四、五百台なんです。なので、需要と供給のバランスで言うと満たされているという状況にはある。ただ、距離が若干、今の民間駐輪場は本当ロータリーに面していますから、とても便利だとは思いますが、若干お借りした場所によっては離れてしまうところはあるかもしれません。先ほど申し上げましたように、四千数百台あるところですね。東小金井駅周辺全体で。今お借りしている方が二千数百台ということなので……。

○市民E

それは月極ですか。

○西岡市長

需要と供給のバランスで言うと、十分満たされていることになります。 以上です。

○市民F

私、まず、杉並区から1か月前に引っ越してきたばかりで、ちょっと経験もないですし、いろいろな知識がないので、ちょっと変なことを言うかもしれませんが、それをまずお断りして。

○西岡市長

いいですよ。お名前を教えてくださいませんか。

○市民F

〇〇と申します。一番に感じましたのは、杉並区で子どもと本とを結ぶボランティアをかなり活発にやっていたので、ここへ越してきてからもそういうことをやりたいと思ひまして、まず、自転車で図書館を探そうと思ひました。そのときに、携帯と地図も見て、自転車、それから、もしバスを利用できるんだったらバスもと思ひたんですが、まず、バスは杉並にも「すぎ丸」というバスがあるんですが、あれは時刻も、それからどういうルート、それがバスストップに全部書いてあるんですね。あと、高齢者、無料バスを、関東バスに乗れるんです。その荻窪の駅に、どういうバス停を通っているのか、それから時間も書いてあるので、自分の行きたいところはそこを見れば分かるんですけども、ここへ越してきて、まず、バスの利用が分かりませんでした。いろいろな案内がなくて。それで、自転車とスマホと、市でもらった地図を持って、「ここ」と思ひて行つたんですけども、まず、緑町分室に行つたら、道に当然迷つちやつて、そのとき掲示板がないんですね。それと、あと、尋ねたくても、一軒家が多いから、飛び込めなくて、本当にスマホと地図を一生懸命やりながら。ただ、自転車だったので、いろいろなところ意外と不便ということはいいことだなという気づきがありながら、緑町図書館へ行きました。それから、今度、そこでの印象があつたので、本館ってどういうところと思ひて、今度本館も散々探して行つたんですけども、一番感じるのは、越してきて何も分からない者にとっては、非常に案内がないということ。それから、杉並には善福寺公園という立派な公園があるので、そのイメージで小金井公園へ行つたんですけども、まず、行って、右へ行つていいのか左へ行つていいのか、公園の大きな案内がないので、どうしたものかと思ひて、ただ、やたらと自動車がたくさん並んでいるので、今日はイベントがあるのかしらと思ひたら、バーベキューでもういっばいだったんですね。

○西岡市長

東京都立小金井公園のことですか。

○市民F

そこの一番向こう。

○西岡市長

都立小金井公園ですか。

○市民F

そうです。結局、あんまりにも思っていたイメージと違ったのと、どこへ行っていいかという、イメージが立たなかったんです。案内板がないと。一番申し上げたいのは、来た者、全く分からない者には、もうちょっと親切な案内というんですか、そういうのが欲しいなと思ひまして。

○西岡市長

まずは、ようこそ小金井市へお越しくださいました。分かりました。大変重要な意見だと思います。私たち長年住んでいる市民からすると、私の場合は、小さい頃から小金井ですから、ずっと小金井なので、町のことはもちろん当たり前のように自分は知っているわけですが、おっしゃるように、小金井、最近、転入者も多くて、幅広い世代の方々に小金井にももちろんお越しいただいているのはとても嬉しいことですが、そういった市民の方々に親切といひましようか、丁寧さが足りないというふうに言われてしまえば、これは率直に大変申し訳ないと、お詫びをするしかないと思ひておひまして、どういったことが更にできるか考えさせていただきたいと思ひます。C o C oバスについてはですね、パンフレットとかはいろいろなところに置いたりしているんですが、今、杉並区のとときは各バス停でも分かるようにとおっしゃっていましたね。小金井は、C o C oバスのバス停って、かなりの箇所数を設置しているんですが、そういったバス停を活用する、バスを利用する人はバス停に行かれるわけですよ。そのバス停を活用するということは確かに有効な方法かなと思ひました。ネット社会ですから、もちろんネットで調べればすぐ分かってしまうんですが、もちろん、インターネットにすぐアクセスできない方も沢山いらっしゃいますから、そういった方々のためにどのようなことができるかしっかり考えなければいけなと思ひました。ちなみに、この5月15日号の「市報こがねい」、小金井は「市報こがねい」をかなり活用してひまして、ちょうどまちづくり特集号というページ5月15日号にありまして、ちょうど真ん中のページなんです。今、C o C oバスについては全面的な見直し作業、ちょうどC o C oバスが、走らせてから、コミュニティバスが走ってから今ちょうど20年ぐらいたっているんです。1つの見直しの時期なので、見直しを行

いまして、新しい、そんなに大きくルートが変わるわけじゃないんですが、5つのルート、基本的に継続して、部分的にちょっとルートが変わるところがあるんですけども、そういったことで市民の皆様方に説明会、パブリック・コメント、意見をもらう、色んな御意見をいただく、そういう段階に今ちょうどいます。御参照させていただければと……。

○市民F

それを体験して、自分の近いところの何で行けばいいかというのを一度乗ってみようかと思っています。

○西岡市長

C o C oバス専用のパンフレットがあるんです。ここにあるかな。調べてもらって、あるなら持って来てください。C o C oバスのパンフレットがあります。それですと、ルートが分かりやすくなっていまして、小金井4キロ・4キロの四方、11平方キロです。杉並区の、どうでしょう、面積の5分の1から6分の1ぐらいでしょうか。面積で言いますと。人口も杉並だと確か50万人位いますか。小金井市は12万人ですから、杉並区に比べるとコンパクトシティですけれども、駅の数も3つです。武蔵小金井駅と東小金井駅と、西武線で新小金井駅。杉並はもっとたくさんありますね。西武線もあるし、中央線もあるし、京王線もありますね。規模で言うと比較になりませんが、小金井は4キロ・4キロの町で、割と覚えやすい地形です。なので、C o C oバス、私も1人で1日かけて全部乗ったことがあるんです。C o C oバスに乗ると、小金井市は、全域とは言いませんけれども、かなり網羅的に見ることはできます。かなり網羅的に。お昼御飯なんか、お弁当なんかを持っていただいて、C o C oバスで市内観光といいたまわろうか、市内行脚していただくと面白いかもしれません。

○市民F

あの自転車とかそういうのは、意外といろいろなところを見つけられるので。

○西岡市長

都立小金井公園に関しては、それは東京都立なので、運営主体は違うんですが、かなり広いんです。奥多摩のほうのああいう丘陵地や山間部の公園を除いて、いわゆる平地の都

立公園としては最大規模と言われていまして、外周5キロ、非常に大きな公園です。小金井の1つのシンボルなんですけれども。確かに、案内板まで到達するには……。たくさん要所要所にあるわけではない感じがしますね、確かに。御意見として受け止めさせていただきたいと思います。ただ、かなり看板は至るところにはあるんです、小金井公園の中に。ただ、それがきめ細かく何メートル間隔に置かれているかという、決してそうではないと思うんですけれども。

○市民F

あとはここから公園に行く途中に、道路のところに掲示板があるんですが、書いている文字が見えないんです。

○西岡市長

小金井市ですね。

○市民F

すぐそこ。

○西岡市長

確かに、小金井市が設置している看板で、もう相当劣化してしまっていて、古い看板があるのは十分承知しています。私も市長として、ああ、これはもう本当に相当経過しているなど感じていまして、それは段階的に取り替えているんですね。十分、予算的な部分もあって追いついてないことは大変申し訳ないと。

○市民F

多分、新人だから知りたいと思っているので、多分、住んでいらっしゃる方は、興味がないかもしれません。

○西岡市長

貴重な御意見です。ありがとうございます。

○司会者

ありがとうございます。続いて、地域と経済ということで、主に防災の分野であるとか、または産業、商業、工業、農業といったところの分野になってくるかなと思うんですけども、この分野で御質問がある方、御意見のある方。

○市民G

あ……。

○西岡市長

多分この分野だと思います。農業。

○司会者

どうぞ、どうぞ。

○市民G

ありがとうございます。東町〇丁目に住んでいる〇〇と申します。先ほど市長にも会っていただきましたが、10か月になる赤ちゃんのママをやっています、今、ちょっと奇声あげて大丈夫かなと思っていたんですけども、今日は、市長に学校給食のオーガニック化とオーガニックビレッジ宣言をしてほしいということで、それをお伝えしたくて参加させていただきました。私はママになって子どもにあげる食事にすごく気を遣うようになりました。小金井市の離乳食教室に参加した際にもらったパンフレットに、お米や野菜はなるべく無農薬であげてくださいねと。で、日本は、ホルモン剤とか抗生剤には気をつけて、魚は大型の魚、マグロとかは生物濃縮があつて汚染があるから気をつけてねということを書かれてありまして、なかなか、本当に安心して赤ちゃんに与えられる食材があまり手に入らないなということを痛感しました。そういう思いから、娘がこれから行くであろう保育園、学校の給食のオーガニック化をしてほしいなというふうに思っております。去年8月の第2次農業振興計画意識調査というのを拝見したんですけど、有機農業など環境に配慮した農産物を買いたいというふうに答えた市民が58.2%いたと書かれておりました。なので、現状、多くの小金井市民は、小金井産の有機農産物の生産というものを期待しているんだなど。だけど、それがちゃんと作られていない。そして、それが売られて

いないのが現状ではないかというふうに思いました。なので、市内の生産者がもっと有機農産物を作って、生産をして、それが市内のスーパーや直売所、レストランやカフェなどで提供されていて、小金井市民がそれを購入できて、なおかつ、保育園や学校給食でそれが食べられる、子どもたちに安全なものをあげられる。そういう小金井市であってほしいなというふうに思いました。実際、小金井市気候変動非常事態宣言というのをされているとおっしゃっていましたが、有機農産物は圃場に炭素を貯留するので、温室効果ガスの削減にもつながりますし、農薬を使わないので生物多様性の保全にもつながります。実際、オーガニックレストランだったり、カフェが、にぎわえば、市外からもそれを買いたい、食べたいというお客さんが来て、商店街の活性化にもつながるんじゃないかなと思っています。消費者として、子どもたちの健康や食育にも関わると思いますが、子育て世帯がそれで移住も増えるのではないかなというふうに思っています。農水省が去年、みどりの食料システム戦略というのを出しまして、それでオーガニック市場を拡大して、有機農業の面積を2050年までに25%にするという目標を掲げています。例えば、フランスでは、公共調達で20%をオーガニックにするということを法律でも義務づけていたりします。なので、小金井市でもぜひオーガニックへの転換というのをやってほしいなというふうに思っています。いろいろな私の友達もほかの自治体で活動とかして、農業課に話を持っていったりすると、給食は教育委員会ですからと言われてたり、いろいろな管轄にまたがっているの、なかなか進まなくて難しい面もあるとは思いますが、ぜひ市長のリーダーシップでオーガニックビレッジ宣言をしていただければなと思っています。よろしくお願いします。

○西岡市長

ありがとうございます。非常に具体的で、また先進的な政策の御提案をいただきまして、ありがとうございます。お仕事でこういう分野のお仕事をされているんですか。

○市民G

はい。農業関係の仕事をしています。

○西岡市長

お詳しいなと思いました。小金井の場合は、都市農業、農耕、農地のこと、農業のこと

について地元の農業者の方々と連携しながら、色んな取組をしております。しかし、まだ、御指摘いただいた有機栽培や農薬不使用などの面については取組が、正直申し上げまして、まだまだ十分ではない。農地の保全という意味でも、生産緑地も、御承知のように2020年問題というのがあって、ここで一旦継続するかしないかという節目があるんですけども、小金井の場合は、たしか約98%存続ということで、非常に高い存続率になりました、非常に頑張ってもらっていると思っています。また、有機、無農薬とまではまだまだ行きませんが、学校給食の地場産野菜の活用を市長就任以来進めてきました。私が市長になった7年前は、学校給食で使っている地元野菜の料理って、2%ぐらいだったんです。今は13%ぐらいにまで増えている。私としては15%以上、できれば20%に近づくぐらいまでは何とか毎年毎年向上させていきたいなと思っているところでございまして。この取組には、地元の方々の理解が必要でして、学校給食に納入する野菜というのは、通常の野菜と若干違うんです。サイズとか、いろいろな栽培方法も多少工夫してもらわなきゃいけないので。JAの方々にとっても御努力いただいています。なので、もっとこれを定着させながら、今御指摘いただいたオーガニックビレッジという発想についてはぜひ検討させていただきたいと思います。農水省のほうも今推奨しているということでもありますし、KPIが25%という形にもものぼっている水準です。最近、子どもたちの食育というのは非常に重要なところなんです。地場産野菜を進めてみてよかったのは、食育につながっています。地元の農家さんと小金井の子どもたちがつながるような。私が常々意識しているのは農業。農業はとても大事です。農業掛ける福祉、農福連携。あるいは、掛ける商。農業と商業、掛ける地域ですね。農業農地と福祉の項目や、商業の項目や、いろいろな地域、子育て支援、教育、こういった分野が連携をして、つながっていく。こういったものはとても大切なことだと思っています。いろいろなことを提案させていただいております。ちなみに、小金井は武蔵小金井駅の北口に、駅から歩いて数分のところなんです。高架線走る中央線が見えるすばらしい広い農地があります。その約3,000平米の、農地を東京都が初めてセミナー農園として整備し、事業を開始しています。高齢者を対象としたセミナー農園です。その農園では、高齢者向け農園、子ども向け農園、福祉農園、地域農園など、地権者の方の御理解をいただいて、多面にわたる取組が行われています。本当私も、この間、テレビのJCOMの取材で行ってきたんですけども、農地を通じて多様なつながりができているんです。すごくいいなと思います。特に小金井の場合は、マンションやアパートも多いので、家庭菜園をしたいという人がいっぱいいらっしゃるんです。

でも、ほとんどの方が自分の庭で畑を作れる人というのはなかなか限られていますから、プランターで作る人が多いんですが、やっぱり地植えをしたい。小金井市も市民農園を毎年1園ずつ開設することを目指して取り組んでいます、いつも高い倍率で、大体40区画とか50区画募集をかけると、あっという間に埋まってしまいます。すごい人気なんです。なので、市民農園をもっと増やしていきたいと思っています。私は、農地農業と私たち市民生活は大変密接ですし、もっと深いつながりを今つくっていききたいと思っています。なので、そのきっかけ、契機として、さらに、このオーガニックビレッジという発想が、よりそのつながりを深くしてくれるものになるというふうに私としても勉強させていただきましたので、この資料を参考にさせていただきます。小金井市の担当はどこかということですが、市長部局だと経済課です。学校給食というと、教育委員会の学務課になりますが、学務課と経済課は既に学校給食の納入の関係でかなり密接に連携を取っていますから、私と教育長ともよく連携を取らせていただいています。私もJA、農業関係者の方々とはよくお会いしますので、このオーガニックビレッジという発想を大切にさせていただいて、今後の小金井市の農業振興に向けて、勉強させていただきたいと思いますので、よろしく願いいたします。何かありましたらどうぞ。

○市民G

ぜひお願いします。

○司会者

そのほか防災関係とか産業の関係で御提案とか御質問とかいかがでしょうか。 そうしましたら、一旦、こちら、次の政策のほうに移ります。次は子どもと教育ということなので、子ども・子育て子育ち環境、または、教育なので学校関係ですね。という形の教育環境について、御意見とか御質問のある方いらっしゃいますでしょうか。

○西岡市長

どんなことでも。どうぞ。

○市民H

私は杉並で、杉並区の子どもたちに対する本を、子どもたちと本との橋渡しということ

にとっても熱心で。保健所で初めての健診に行ったときに、ブックスタートといって、子どもたちに本を渡すスタートが、杉並が最初だったと私たちは講習で聞いているんですが、そのときに、赤ちゃんには絵本、それから、小学校1年生に上がる子どもたちには辞書をプレゼントするというのを聞いています。私自身は家庭文庫を、これは友人が50年近く、自宅を開放してやっけていまして、これは子どもたちにとってはすごく居場所になったみたいで、今も月1回参加しています。あと、図書館なんですけれども、赤ちゃんタイムというので、2か月たった赤ちゃんもお母さんに抱っこされて来るんですね。人によっては、赤ちゃんに絵本を読んでも分からないでしょうとおっしゃるんですが、もう一つの目的は、お母さんたちのコミュニケーション、おしゃべりをする場。家の中で子どもと、悶々としちゃうとおっしゃいます。私たちが話しすると、1週間ぶりにお母さんは大人と話しした、こういう場がもっとほしいということをおっしゃいます。それから、貧困家庭の子どもたちの勉強を見てあげる塾とか、それから子ども食堂も関わっていました。こういうことって、教育格差にもつながる問題じゃないかなというのは話題に出ていまして、結構私たちの間でいろいろな活動をしてきました。私もここへ来てから、まず、図書館がどうなっているかというのを見に行ったときに、正直言って何か、暗い感じを受けたんです。こういうことを言うのはよくないかもしれないんですけれども、何か暗い感じだなというのと、お昼頃行ったんですけども、子どもたち、所謂小さな子どもが全然いなかったんですね。多分、保育所とかはとてもたくさんいるから、そっちのほうに皆さん預けていらっしゃるのかなという印象で、まだ2軒しか図書館に行っていないので何とも言えないんですけれども、今、新庁舎の話をなさって、その新庁舎の中がもうできているとおっしゃったから、今からこういうこと言うのはあれですけど、図書館とか子どもたちが集まる場所というのはいないんですね。千代田区の区役所のビルの中には図書館とかがありまして、子どもたちはもっと本を読まないといけないとか親は言うんですが、そういう環境がなかったら、環境をつくるというのも1つ大人の仕事じゃないかなと思いつながら、こちらへ来て、何かそういう活動ができないかと今思っているところなんです。ちょっと話がまとまらないんですけれども、あまりにもちょっと、今までやってきたことがこちらではできないのかなという感じはしています。小学校でも読み聞かせの時間とかで、結構皆さんやっけていらっして。まとまらなくてすいません。

○西岡市長

ありがとうございます。杉並の例を引用していただきながら、小金井市でも本を大切に
する町であってほしいということや、いろいろな政策、施策の充実を願われていると受け
止めております。市長といたしましても、本を大切にする町。小金井も読書家、愛読者の
方はたくさんいらっしゃいますし、子どもたちの教育環境も含めて、本が読める環境、こ
れを充実させるということがとても大切なことだと思っています。小金井市も、本につな
がるような様々な政策や取組は、市民レベルでも実に多くの方々が活動してくださって
います。なので、これから、色んな場をぜひ知っていただいて、もし御興味があれば、そう
いったボランティア活動に御参加していただければと思います。図書館の本館に行かれた
んでしょうか。暗い感じがするということは、しっかり受け止めたいと思います。何か改
善しなければいけないと思いました。そういうふうな印象を持たれてしまうのは、やっぱ
りよくないかと、反省しなければいけないかと思えます。ただ、小金井の場合は、正直申
し上げまして、図書館の施設面について、だいぶ施設が老朽化していたり、1人当たりの
面積も決して広いわけではないので、そこは改善してほしいというたくさんの市民の声が
届いています。しかし、ソフト面については、いろいろ頑張っていて、例えば、電子
図書室なんていうのをいち早く開設しておりまして、インターネットでも本が借りられる
という、ネット電子図書室も開設して、これはコロナの影響がありまして、非常に多くの
方々に御登録いただきました。それから、子ども向けで言うと、例えば、図書館本館で赤
ちゃんのためのお話会を行って、これはすごく人気があるそうです。赤ちゃんに絵本を読
み聞かせる会で、おっしゃるように、お母さん同士のコミュニケーション、コミュニティ
ーが形成されたり、赤ちゃんであっても何らかの反応といいますか、いい反応がやはりあ
るだろうということで。私の個人的な話ですけれども、5か月の赤ちゃんに、昨日、絵本
の読み聞かせをしたんですね。もちろん、読んでいること、5か月ですから、もちろん理
解できないまでも、一緒にこう私の膝の上に乗せて、こう、見るんですよ。じーっと耳
を澄ませて聞いてはくれているんですね。いろいろな反応をしています、やはり赤ちゃん
との触れ合いにもなりますし、大事なことなので。自分自身でも思っていて。僕もうち
の妻が大変絵本が好きで、いろいろな絵本を常に用意しています。僕もそれを見ると、大
人であっても、赤ちゃん向けの絵本でもすごく感情が豊かになるというか、発想が豊か
になるというか、すごくいいかと思ひまして、ほんとに僕も絵本に、何ていうんでしょうか、
はまりつつあるというか、はまってしまっているというか、そんなところで、横にいて損
はないです。いずれにしても、図書館の環境についてはもっともっと向上していかなけれ

ばと、小金井市立図書館基本計画というのをつくりましたので、もし御興味がありましたら、ぜひ御覧いただければというふうに思います。ソフト面についてはですね、さらに充実していけるように、特に子どもと市なり様々な施設なりがしっかりつながって、子どもたちに本のよさ、読書から得られる色々な意義や人生観を含めて、本から学ぶことって、人間は多いわけですから、そういう環境をしっかりと整えていけるように、引き続き、取り組んでまいりたいと思います。ありがとうございました。

○司会者

お時間が迫ってきまして、非常に多くの御意見をいただいておりますので、すいません、本来は1つ1つ政策ごとにお話をお伺いできればよかったですけれども、こういう形になってしまいましたので、あと、お一方、お二方ぐらいでも、どうしてもこの機会に全般的にお聞きしたいということで、御意見をお伺いさせていただいていいですか。

○西岡市長

何でもいいですよ。どんなことでも結構です。

○市民 I

市長は住民福祉を第一に市民にしているとおっしゃっているんだけど、相当欠陥がある事実がありまして、福祉政策の中で、担当を民生委員に委ねている部分があって、ところが、民生委員のいないところが結構多いんです。5月1日の市報にも載っていましたが、全部で78地点あるうち、15地点に民生委員がいない。僕の住んでいるところは、2年前にいないことを確認して、その5年前、7年前にもいないことを確認した。だからずっといないんですよ。それで、そういう福祉政策に応募したら、担当者が言うには、あなたのところは民生委員がいないからできません。それでおしまい。それで、オンブズマン制度というのがあって、市長にも答申が行きますけど、この問題を解決してくれるかなと思って提案したら、それは弁護士が担当しているんだけど、ちょっと能力がなさ過ぎる弁護士で、要するに、解決する方法が自分で見つけられなくて、どういう回答を出したかという、一生懸命民生委員を集めなさいという回答でした。ところが、この10年間ぐらい、要するに、構造的欠陥があって民生委員って簡単に集まらないというのはもう分かり切っている。全国的な、あるいは、多くの地域でそういう状態になっていると思うけ

れども。担当課はそこそこやっけても、全然集まらない。担当者一代の欠陥ならいいけれども、僕が確認した7年前からずっといない。多分、その前からいない。で、市が市民にこういう福祉政策をやりますと言っているけれども、民生委員がいないところは、それが希望してもできない。そのまま放置される。民生委員がいなかったら、代わりの方法を考えることは簡単にできると思うんだけど、そういうことを考えようという気がないんだよね。あなたのところは民生委員がいないからできませんで、その担当者は仕事が終わったと思って、一丁終わりになる。それで、担当者は分からないにしても、課長なら何か言うだろうと思って、課長に電話を替わってくれと言ったら、課長は出かけています。それは出かけてもいいんだけど、何時に帰りますかと言ったら、何時に帰るか分かりませんと。市の職員は半分遊びながらやっているのかと思わざるを得ない。だって、管理職が出かけているのはいいよ。何時に帰るか分からないで出かけるということは、何をやっているか分からない。そういう市政の状態がいいんですかと。せっかく政策を打ち出しているのが、民生委員がいないということできなかつたら、民生委員がいない場合はどうするかというのを考えるのが仕事だろうと思うけども、ここから先に全然頭が進んでいない。民生委員はいないからできませんと、自分の仕事はほとんど終わったと思っているから。もうちょっと市の職員が真面目に仕事に取り組むような雰囲気を出せば市長はちゃんとつくらないといけないと思いますよ。まあ、ごく一部かもしれないけれども、相当やる気がないのが腐ったのか分からないけど、相当に不真面目。

○西岡市長

以上ですか。率直な貴重な、また厳しい御意見をいただきまして、ありがとうございます。地域福祉課長には私からも直接、明日、お伝えさせていただきたいと思います。まず、お名前と御住所、お電話番号を教えてください。明日以降、民生委員が欠員となっているところ、こういったところにあっては、民生委員がいるところとないところ、いないことによってできなくなってしまう取組があるとなれば、それはどのように補完しているのか、していないのか。ほかの民生委員さんがその地域を見るという場所もあることは知っています。その場合、その人の負担は増えますけれども、空白地帯をなくすための、空白地帯を生まないために、民生委員さんが、本来自分の地域ではないんですけども、広域的にやっけていただいているというケースもあるとは聞いているんですけども。

○市民 I

あるけれども、それはね、実際、忙しくて、よそのことまで構ってられないと言われました。

○西岡市長

ですが、地域性もあるかもしれません。それはまた個人的な対応によっても、若干の対応によって温度差があるかもしれませんが、空白地帯に対して、現在、小金井市としてどういう対応をしているのか、できていないのか。こういった点と、今、全国的に、これは民生委員だけではないんですけれども、例えば、消防団員とか町会・自治会の役員さんもそうですね。民生委員さんもそうですね。保護司さんなんかもそうですね。従前は、大体定員数にしっかりと満たされるだけの人材がいた時代があったと思うんですが、最近は、なかなか担い手不足といいたいまいしょうか、人材を確保するのに正直難儀しているという側面があります。町会、自治会の加入率も、今、小金井は4割を切ってしまった。コミュニティーの希薄みたいなところにつながってしまうことが危惧されるわけでありまして。民生委員についても御指摘のように、やはり地域に欠員が出ているという状況は、これはもう、決していいことではありません。常に募集をして、そして今の民生委員の皆様方も一生懸命頑張って、成り手を確保するために、ほぼ1年中努力していただいているという状況であります。決して諦めることなく、しっかりとした民生委員の方々が確保できるように、活動できるように、市長としては引き続き努力させていただきたいと思っております。いずれにしても、いただいた御意見は担当課長にしっかりと伝えて、御返答させていただきたいと思っておりますので、よろしくお願ひします。

○市民 I

民生委員が集まらないということはもう分かり切っているんだから、民生委員と違うやり方でやる方法を考えなくっちゃ。こういう政策をやりましたって、一部の市民には適用できるけど、ある市民はそれが理由で適用できないで、5年も10年もほったらかしておいて、それで当たり前だと思っちゃったんじゃ、困るんです。

○西岡市長

当たり前と思っはございません。だから、民生委員制度をやめるという選択肢も、今

のところ私にはないです。

○市民 I

だから、補う方法は幾らでも考えられるでしょう。

○西岡市長

それは全体で多分 1 割ぐらいの欠員がいると思われまので、その 1 割をしっかり確保できるように努力することと、空白地域があるならば、その空白地域で補完するような取組をすることが大切ではないかと私としては考えております。

○市民 I

その方法を具体的にちゃんと考えさせてください。

○西岡市長

はい。分かりました。

○市民 I

無視されている。

○西岡市長

放置というふうに言われてしまったら、それは市としては無責任極まりないので、そういった姿勢に捉えられないように改めるのが市長の仕事です。

○市民 I

頑張ってください。

○西岡市長

ありがとうございます。

○市民 J

所謂、先ほど私がお話ししたことにも全部通底していると思いますから、温度差があつてはいけないんです。温度差があるということは行政の怠慢だという、単純に言ったらそういうことです。あちらの方が言っているみたいに。私が言っていることと同じ、通底しているんです。企業様を呼び捨てにするとか何とかというのを話したのは、そういうことが市民、市の職員に全部通底しているから、そういうふうになる。蔑ろにしちゃうんです。そういう気持ちではないでしょうけれども、自然とそういうふうに発言をするということは、通底しているんです。以上です。

○西岡市長

はい、ありがとうございます。

○市民K

すいません。お時間もあれなんですけど。今の話、関連で、包括の方たちがそういう民生委員のようなお仕事をするのは無理なんでしょうか。

○西岡市長

市内には4つの地域包括支援センターがありまして、皆さんそれぞれが補完し合っています。民生委員さんが本来担うべき仕事の領域を、地域包括支援センターの方が担っているケースがいっぱいあると思います。民生委員さん以外は絶対駄目ということではなくて、あるいは、介護事業所の方が担っている場合もあります。児童相談所の方が担っている場合もある。いろいろと補完できる場所はあるんです。しかし、民生委員さんというのは、行政と市民とをつなぐかけ橋役なんですね。ですから、その方がいる町で、本来ならいたほうがいいんですが、定員数があるのにいないということになってしまうと、いらっしゃる所といない所の差が出てしまうというのは、これは御指摘のとおりなので、そういうことがないようにして行って、空白地域を克服することが大事だと思う。しかし、現状は、本当に福祉で困っている方がいらっしゃれば、市として放置することはできません、もちろん。何か異変があれば、当然駆けつけます。それは決して民生委員さんだけの話ではなくて、地域包括であったり、場合によっては行政機関ということも多分にありますので。以上です。

○司会者

まだ御意見等を伺いたいところではあるんですけども、お時間となってしまいましたので、これで一旦回収させていただきまして、最後に、市長から一言申し上げまして、終了させていただきたいと思います。

○西岡市長

今日も本当に大変活発な御意見をいただきまして、ありがとうございました。政策の提言もいただきましたし、今、近々で困っているような事案もありましたし、また、小金井市全体の福祉に対する姿勢に対する基本的なところについてもいただきました。ありがとうございました。引き続き、この市民と市長の座談会は継続して開催してまいりますので、私も、コロナ禍です、対面でお会いする機会がなかなかできなかったんですけども、今後の感染状況にもよりますけれども、可能な限り、やはり私としては、町に出て市民の方々とこのように直接お声を伺うような機会というのはしっかり積極的につくってまいりたいと思っておりますので、どうぞこれからもよろしく願いいたします。本日は、誠にありがとうございました。

○司会者

以上をもちまして、令和4年度第1回の市民と市長の座談会を終了させていただきます。本日はどうもありがとうございました。